

小児整形外科

1. スタッフ（平成26年4月1日現在）

科長（学内教授） 吉川 一郎
 医員（講師） 渡邊 英明
 （病院助教） 菅原 亮

日本脊椎脊髄病学会指導医 吉川 一郎
 日本整形外科学会運動リハビリテーション医
 吉川 一郎 他2名
 日本整形外科学会リウマチ医 渡邊 英明
 日本整形外科学会スポーツ医 渡邊 英明

2. 診療科の特徴

（診療科内容）

小児の脊椎、骨、関節、筋その他の運動器に生じる疾患や外傷に対する診療を行なっている。

以下に主な対象疾患を挙げる。

脊椎および脊髄疾患（腰痛症、椎間板ヘルニア、脊椎分離症すべり症、脊柱側弯症、後弯症、先天性側弯症、二分脊椎など）、斜頸、Sprengel変形、多合指症、野球肘、股関節疾患（先天性股関節脱臼、ペルテス病、大腿骨頭すべり症など）、膝関節疾患（Blount病を含むO脚・X脚変形、離断性骨軟骨炎、円板状半月など）、足部疾患（先天性内反足、麻痺性足部変形など）、多発性関節拘縮症、骨系統疾患、骨代謝疾患（くる病など）、骨関節感染症などである。

（当科の特色）

1：脊椎疾患

小児整形外科では、センター設立以来、小児脊柱変形（側弯症、後弯症）の治療に最も力を入れている。25年は脊柱変形矯正手術が12件だった。

また幼児期側弯（Early onset scoliosis）に対しても積極的に全身麻酔下にギプス矯正治療をおこなっている全国でも数少ない施設の一つである。症例が徐々に蓄積しているためにこれまでのように1症例に2回2週間ずつギプスを巻くということが手術枠に限りがあるために不可能であることから今年度は3週間1回のみギプス巻に変更した。また、25年度は、症候性側弯症の10歳の低身長のおこさんにgrowing rod手術を初めて行った。

2：足部疾患、股関節疾患

吉川、渡邊は、これまでと同じく先天性内反足、麻痺性足部変形の診断と治療も専門の一つとしており、その診断と治療を積極的におこなっている。幼少児の軟部組織解離術はもとより思春期や成人の麻痺性足部変形に三関節固定術も積極的に行っている。

また、毎週月曜日夕方、一週間ごとに放射線科のスタッフと外来および入院症例のケースカンファランスを行っている。

・専門医

日本整形外科学会専門医 吉川 一郎 他2名
 日本整形外科学会脊椎脊髄医 吉川 一郎 他1名

3. 診療実績・クリニカルインディケータ

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	369人
再来患者数	3,603人
紹介率	68.0%

（外来担当医師）

吉川 一郎（学内教授）：脊椎外科、小児足部疾患、小児整形全般
 渡邊 英明（助 教）：脊椎外科、小児足部疾患、小児整形全般
 菅原 亮（病院助教）：小児股関節、小児整形全般

2) 手術症例病名別件数

脊柱変形矯正手術	12件
（思春期側弯症11件、成人骨盤後傾による脊柱変形1件）	
脊柱側弯症全身麻酔下ギプス巻き	10件
先天性内反足、麻痺足手術	12件
腱切り術（脳性麻痺）	2件
先天性股関節脱臼靱帯の整復術	5件
骨盤骨切り術（キアリ骨切り術）	1件
大腿骨頭すべり症ピンニング	1件
大腿骨回旋骨切り術	1件
下腿骨骨切り術	2件
ペルテス病大腿骨骨切り術	5件
筋性斜頸	4件
良性骨腫瘍切除術	3件
麻痺性股関節脱臼手術	1件
成長抑制手術	3件
感染症	2件
ばね指	1件
骨内金属除去術	11件
骨折手術	4件
骨生検	1件
関節形成術	1件
合計	82件

（化学療法症例）なし

（放射線療法例）なし

4. 事業計画・来年の目標等

子ども医療センターで、月曜日午前（新患と院内紹介のみ）、午後と木曜日午前中に一般外来診療を行っています。また、月曜日午前中に渡邊が「小児の足外来」をおこない、主に先天性内反足のギプス巻き外来を行なっている。

また、月2回の「二分脊椎外来」も子ども医療センター各科と連携して行っている。紹介外来患者も少しずつ増加してきている。次年度も、難度の高い脊柱側弯手術を安全かつより良い変形矯正が得られるようおこなって高度医療機関としての役目を果たすこととこれまで同様に先天性内反足や麻痺性足部疾患など専門性の高い疾患の治療を継続していくことを目標に考えている。